



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359

TEL 0993-22-6422

多様な新規就農者32名が就農！

枕崎市，南さつま市，南九州市では、令和4年7月から令和5年6月にかけて、20～40代の32名が新規就農しました。今年の新規就農者は、例年の10名前後に比べかなり多くなりました。

また、他業種からの転職や女性農業者の就農など多様な担い手の就農が特徴で、今後の活躍が期待されます。

1 新規就農者が営農の思いを語る！

(1) 新規就農者の巡回訪問

南薩地域振興局農政普及課では、6月下旬に新規就農者32名全員を巡回訪問し、現在の営農状況や営農に関する相談、今後の抱負などについて語り合い、新規就農者プロフィールにまとめました。

この中で、多くの新規就農者が、栽培技術の習得や規模拡大など営農の確立に向けた取り組みについて語ってくれました。

また、福祉作業所やシルバー人材センターとの連携、地元の子供達の農業体験の場の提供など地域貢献への意欲を語る方もありました。



写真1 営農の抱負を語る新規就農者

(2) ニューファーマーの集い

7月6日、南九州市知覧文化会館で、19名の新規就農者が参加し、「南薩地域ニューファーマーの集い」を開催しました。

会では、各新規就農者が営農に対するそれぞれの思いを語るとともに、関係機関や指導農業士が、励ましや助言指導を行いました。



写真2 新規就農者を囲んで！

2 栽培技術の習得に向けた取組み

7月26日と8月2日に新規就農者等延べ18人が参加して農業基礎講座を開催しました。

講座では、営農に必要な土壌肥料や病害虫等の基礎知識や農業機械の安全使用について、実践的な講義・実習が行われました。



写真3 農業機械のメンテナンス実習

果樹園におけるロボット草刈機による省力化

1 ロボット草刈機の導入について

除草作業は、かんきつ栽培の中でも重労働で多くの時間を費やしています。

そこで、作業の省力化を図るため、県事業を活用してロボット草刈機を指宿市スマート農業推進協議会が導入し、効果について検討しました。

2 ロボット草刈機の特徴

- (1) 自動で充電、自動で刈り取り
- (2) 雨天時、夜間でも自動走行が可能
- (3) 動力は電気(今回は太陽光パネル活用)

3 実証ほ場

- ・無加温不知火ハウス(10a)
- ・たんかん苗木園 (17a)
- ・たんかん成木園 (23a)
- ・3つのほ場約50aをローテーションで刈り取り

4 実証結果

- (1) 50aの草刈り期間は、約1ヶ月でした。
- (2) 草刈りの作業時間は、慣行と比べ約9割削減でき、大幅に作業が省力されました。

(3) 実証農家の感想としては、「暑い時間帯での作業が軽減され、非常に助かっている。」とのことでした。

(4) 今回の実証では、導入に係る年間経費(償却期間7年で試算、労働費含)は、10a当たり42,901円で、これまでの草刈り作業と比べて17,401円の増となりました。

実際に導入する際は、共同利用又は事業等を活用した方が良いと考えられます。



畜産ICTによる生産性向上

1 畜産ICT機器の導入実績の概要

肉用牛の繁殖経営では、「観察」はとても重要です。発情の発見やお産の兆候など、細かな観察が直接生産性につながります。

畜産ICTでは、牛の観察を活動量解析機器などを用いて、24時間行動変化をアラート通知することで、家畜の重要な発情兆候等の見落としを低減することが可能です。

指宿市スマート農業推進協議会では、令和3年度から、畜産ICT機器の導入実証を行っています。牛の発情発見機器(U-motion 写真1)、分娩監視装置(牛恩恵、牛わか 写真2)等を実証農家に導入し、発情や、分娩兆候の発見と、疾病の早期発見について経済効果を分析しています。

2 実証調査の結果

- ① U-motionでは発情検知率が93%(39頭/42頭)で、分娩間隔も415日から399日と16日短縮しました。
- ② 牛恩恵では分娩検知率100%で、分娩事故もなく、生産者も分娩までの待機期間が短縮され、大きな負担軽減につながったと実感しています。

③ 牛わかでは、分娩検知率84%(21頭/25頭)、分娩事故は0頭でした。今後未検知牛の原因等を考察する予定です。

今後は費用対効果の分析を行い、地域の生産者へ研修会などを通じ、波及を行う予定です。



写真1 U-motionを装着して発情発見



写真2 牛舎に設置した牛わか

ハウスオクラの栽培管理(温度・かん水)の考え方

1 はじめに

指宿地域のハウスオクラの栽培面積は、降灰対策事業などを活用しながら年々増加し、現在75.3ha(令和4年度)ですが、今後も増加することが予想されます。

当地域のハウスオクラは、暖房施設を使わない無加温栽培であり、低温や長雨などの自然環境に左右されやすいことや、これまで一般的に行われてきた生育初期の過度な蒸し込み管理では、ハウス内が高温多湿となり、徒長や樹勢低下等を招き、心止まりや灰色カビ病等の発生の要因となっていると考えられました。

そこで、ハウス栽培での適正な栽培管理技術の確立に向け、実証活動に取り組み、結果を基に関係者で検討し、温度管理やかん水管理等の基本的な考え方について整理しましたので紹介します。

2 温度管理(換気)の考え方(表1)

発芽後からの温度管理について、自動換気、手動換気に分けて整理しました。

本葉第1葉が展開した後は、ハウス内の高温多湿による徒長と灰色かび病等の病害発生を防ぐため、適温よりやや低めの26℃を基準にした換気が適していると考えられます。

また、急激な換気は、草勢低下を招くため避ける必要があります。

＜表1＞ハウスオクラの基本的な温度管理(換気)の考え方

これまでの温度管理	(時)	播種後～発芽まで	発芽後～初生葉展開まで	本葉第1枚展開以降	
				自動開閉	手動開閉
↓	7:00	密閉又は30℃	密閉又は30℃	密閉又は30℃	
	10:00			30℃	
	11:00				
	18:00				
	備考			<ul style="list-style-type: none"> ・極端な蒸し込み管理の実施 ・ハウス内温度上昇による急激な開閉等(※ハウス内が35℃以上になることも多い！) 	
改善(案)	(時)	播種後～発芽まで	発芽後～初生葉展開まで	自動開閉	手動開閉
↓	7:00	密閉又は30℃	30℃ ～ 28℃	すかし換気(5分程度)	
	8:00			22℃	25℃
	9:00			24℃	
	10:00			25℃	
	11:00			26℃(28℃) ※強風時 低温時	26℃(28℃) ※強風時 低温時
	18:00			<ul style="list-style-type: none"> ・早朝に“すかし換気”を行い、余分な湿度を抜く。 ・2重被覆は早めに開けて、水滴のポタ落ちを防ぐ。 ・換気をする場合は、冷風が直接オクラに当たらないように注意する。 ・換気は、トンネル→二重被覆→外ビニールの順。(閉めるときは逆) ・夜間の温度維持、急な温度低下を防ぐため、ハウスの隙間等を塞ぐ。 	

3 かん水管理の考え方(表2)

品種に応じたかん水管理が重要であると考え、生育時期毎に、早生品種と草勢の強い晩生品種に分けて整理しました。

特に、は種後～収穫始めまでのかん水管理が、その後の草勢や収量に大きく影響すると考えられます。

早生品種は、生育初期からしおれさせないように適宜かん水を行い、草勢の強い晩生品種は、やや控えめに管理し、収穫が始まってからのかん水がポイントであると考えられます。

また、地域や土質、土壤水分の有無、かん水方法等も考慮する必要があります。

＜表2＞ハウスオクラの基本的なかん水管理の考え方

品種	(早生品種)	(晩生品種)
	ブルースカイ ニュースカイ ジュピター ピークファイブ 他	オクラスター ジョニー 他
時期		
は種前 (基礎水の確保)	土壤水分を確保する。 ・特に乾燥している場合は多めにかん水しておく。 (目安：30～50 ^{ton} /10a/土壤消毒前) ・水持ちの悪いぼ場(特にしき土壤等)は、乾燥している場合は、は種前までに適宜かん水しておく。	
は種後～生育初期 (本葉5葉目まで) (適宜かん水)	展開葉が濃緑色にならないように、適宜かん水する。 ・徒長に気をつけ、生育を見ながらかん水する。 ※萎れさせない！	徒長しやすいため、かん水は控える。 ・土壤の乾燥状況によっては、かん水する。 ※基礎水の確保が重要！
着果初期～収穫開始 (かん水開始)	1果目着果～2果目が開花	2果目着果～3果目開花
収穫期 (本格的なかん水) 梅雨明け以降等	収穫量多い時や、晴天が続くような時など、少量・多かん水を基本に、かん水量、かん水回数を増やしていく。 (2～3回/日)	
その他注意事項	かん水量など ・地域、土質(壤土・礫、排水性、保水力等)、チューブの種類等により、かん水時間やかん水量を調整する。 ・テンションメーターや検土杖等を活用し、かん水のタイミングを見る。(検土杖では、各層、深い層の土壤水分の確認ができる) ※特に、早生品種は、初期生育から水切れさせないように、こまめにかん水を行うことが重要！ ※初期生育時に、かん水等により徒長傾向になった場合は、PK+Mgの葉面散布を実施する。 (散布例：メリット赤+グリーンセーフラス)	

4 今後の活動

今回整理しました温度管理技術、かん水管理技術の基本的な考え方については、まだまだ改善が必要です。

今後、高収量農家の栽培管理等の調査分析、優良事例の調査、タイマー等を活用した自動かん水装置等のスマート技術の導入検討等を行いながら、継続して改善を行い、適正な栽培管理の確立につなげたいと考えています。

みつばちを飼育している/飼育してみたい皆様へ

1 飼育には届出が必要です!

趣味として人気の高いみつばちの飼育ですが、**毎年届出が必要**なことはご存じでしょうか。

☆なぜ届出が必要であるのか

- ・はち同士の蜜源植物の取り合いを防ぐため
 - ・みつばち飼育者間でのトラブルを防ぐため
- ☆飼育を始めるにあたってお願いしたいこと
- ・近隣住民とのコミュニケーション

よくあるトラブル

<p>刺傷事故</p> <p>○ ミツバチが人を刺すこともあるため、周辺の人には飼育のことを伝え、理解を得ておきましょう。特に、春から夏にかけては分蜂防止対策を講じる等、適正な群数の維持に努める必要があります。</p>	<p>フンの被害</p> <p>○ ハチのフンにより、周辺住民の洗濯物や車を汚してしまうことがあります。飼育場所の周辺には十分配慮しましょう。</p>
<p>スズメバチ</p> <p>○ 秋になると、ミツバチを餌とするスズメバチが巣に飛来することがあります。スズメバチは攻撃性が強く、周辺の住民が刺されることがあるため大変危険です。</p>	<p>ふそ病やバロア症(ダニ)などの被害</p> <p>○ 適切な管理を行っていないと、ふそ病やバロア症(ダニ)などの病気の温床となり、他の養蜂家にも影響を与えることがあります。マニュアル等を参考に適切に管理しましょう。また、異常が見られた場合は近隣の家畜保健衛生所で検査を受けてください。</p>

はちの往来を見て不安に思う方やフンによる壁等の汚れに対する相談を毎年数件受けております。事前に飼育をすることを周りの方にお伝えするようお願いいたします。

2 届出の提出方法について

- 提出書類：蜜蜂飼育届
様式は鹿児島県HPからダウンロード可能です。“鹿児島県 蜜蜂飼育届”で検索してください。
なお、南薩地域振興局でお渡しすることもできます。
- 提出期限：毎年1月31日〆切り
- 提出方法：郵送、FAX、メール、持参
- 提出先：南薩地域振興局畜産振興係
〒897-0031 南さつま市加世田東本町8番地13
※届出であり、許可ではございません。
届出後でも設置場所の再検討や蜂群数の調整をお願いすることがあります。

○お問い合わせ先
南薩地域振興局農政普及課畜産振興係
電話：0993-52-1345 FAX：0993-52-1341
メールアドレス
minami-tikusansinkou@pref.kagoshima.lg.jp

テッポウユリ新品種「咲八姫」の出荷に向けた取り組み

1 「咲八姫」について

「咲八姫」は鹿児島県が育成したテッポウユリ初の八重咲き品種で、今年沖永良部から切り花として初出荷されました。管内では、元々テッポウユリの産地である南九州市川辺町で昨年からの現地試験及び球根養成栽培に取り組み、来年からの出荷を目指しています。



花が多く、来年のこの時期の出荷に期待がかかりました。一方、需要の高い12月出しと5月中下旬出しでは奇形花の発生が多く、安定出荷には厳しい状況でした。



2 現地試験結果について

「咲八姫」は温度管理が難しく、奇形花の発生が課題となっているため、12月出しと4月下旬～5月出しの作型で試験に取り組みました。

結果として、自然条件下での開花期である4月下旬～5月上旬出しでは、正常

3 今後について

「咲八姫」は和風、洋風問わず利用でき、注目度の高い花です。安定出荷に向けて栽培技術の確立が求められており、今年も試験を実施し、出荷量を増やしていけるよう取り組んでいきます。

今年のゴールデンウィークは南九州市のイベントでアレンジメントを展示し、PRも行いました。来年は、南九州市産の「咲八姫」が家庭や様々な場面で彩りを添えることが期待されます。

